

P-A-11

ブラジル産薬用植物タバブイア・アベラネダエを用いた腫瘍増殖初期段階での抑制評価

Efficient evaluation of Brazilian medicinal plant, *Tabebuia avellanedae*
on early stage of tumor growth

○徳田 春邦¹⁾、金子 雅文²⁾、山下 光明²⁾、飯田 彰³⁾、鈴木 信孝¹⁾

1) 金沢大学大学院医学系研究科 臨床研究開発補完代替医療学講座

2) 高崎健康福祉大学 薬学部、3) 近畿大学、農学部

As part of an ongoing project to investigate the anti-tumor and anti-tumor promoting properties of Brazilian medicinal plant, *Tabebuia avellanedae* (TA), these experiments were to demonstrate that TA samples observed the evaluated effects against chemopreventive potency. In the next step, the tumor suppressive effects of TA samples were determined on the early stage of tumor growth by two-stage mouse skin carcinogenesis system. These results suggest that TA samples indicate possibility of useful effect as tumor growth inducing formation on mouse skin.

【目的】

ブラジル産薬用植物、タバブイア・アベラネダエ (TA) について、今回は腫瘍発生直後の腫瘍増殖初期段階での抑制効果に関して検討した。

【方法】

発がんイニシエーターとして DMBA、発がんプロモーターとして TPA を用いて、マウス背部皮膚に腫瘍を誘発した。腫瘍径がほぼ 1 mm に発現した段階で、TPA を塗布した後、30 分後に無生物活性溶剤ワセリンに各種 TA 試料を混合した試験剤を直接塗布した。同様の操作を週 2 回行い、腫瘍発生初期段階での効果を評価した。評価法としては、発生した腫瘍を切除してそれぞれ微量天秤にて重量を測定し、ワセリンのみで処理した 10 個の腫瘍重量を平均腫瘍重量として比較した。

【結果】

TA に関して、市販のエッセンス、その加工物質、含有する活性物質である NQ801 について、初期段階での作用を検討した。ワセリン塗布のみの腫瘍重量との比較では、NQ801 の塗布材料に腫瘍発現を抑制する作用が強い傾向が認められた。

【結論】

我々はこれまで TA による腫瘍イニシエーション抑制作用を検討してきたが、今回の結果により TA は腫瘍のプロモーションを抑制する作用を有することが判明した。